

英語で コミュニケーション



とっとりイングリッシュクラブ活動開始
7月19日(土)、西部地区を会場として、今年度初めて結成された「とっとりイングリッシュクラブ」の第1回の活動が行われ、登録クラブ員140名(中学生58名、高校生82名)のうち、32名(中学生17名、高校生15名)の参加がありました。

午前中は山陰の空の玄関として海外ともつながる米子鬼太郎空港でスタッフの方から説明を受け、午後は境港に移動して、高校の英語指導助手(ALT)の先生と水木しげるロードに出かけました。グループごとにテーマを決めて、お土産店や銅像の前でALTの先生に説明しながら楽しく散策し、最後は英語マップを作成しました。

- 参加者の感想**
- 妖怪の銅像の説明が通じてうれしかった。
 - ALTの先生とたくさん話せて、他校の生徒とも仲良くなれた。

問合せ先 県教委高等学校課英語教育推進室
電話 0857(26)7959 FAX 0857(26)0408
Facebook : <https://www.facebook.com/torienglishadvance>

私たちは働きたいです!

～特別支援学校就労促進セミナー～



鳥取県では、地区ごとに毎年「特別支援学校就労促進セミナー」を開催し、学習公開や意見発表をとおして、企業や事業所の方に障がいのある生徒の「働きたい」という気持ちをアピールしています。

7月17日(木)に鳥取大学附属特別支援学校を会場に、東部地区特別支援学校5校が協力して「東部地区特別支援学校就労促進セミナー」が開催されました。34社の企業や事業所をはじめ、生徒や保護者を含めて約240名の参加がありました。

当日は、「附属特別支援学校高等部生徒の作業学習公開」、「生徒や卒業生等が働くことへの思いを語った意見発表」、「障がい者就労について、就労サポーターによる講演」と、参加者にその熱意が伝わってくる充実した内容でした。教育委員会では生徒の就労希望が実現できるように支援を進めていきます。

今後の開催予定
中部 平成26年9月16日(火) 会場: 県立倉吉養護学校
西部 平成26年9月11日(木) 会場: 県立米子養護学校

問合せ先 県教委特別支援教育課
電話 0857(26)7575 FAX 0857(26)8101



ことカフェでお待ちしています!

5月29日(木)、琴の浦高等特別支援学校内に、「ことカフェ」がオープンしました。当日はたくさんの地域の方に来ていただき、大盛況でした。生徒たちは一生懸命接客し、充実した表情でした。

「ことカフェ」は接客を実践的に学ぶサービスコースの実習として運営しています。9月以降も毎週木曜日、午後2時から午後3時30分までオープンしています。生徒が作ったパンや野菜の販売もあります。お近くに来られた際は、ぜひ、ご来店ください。

問合せ先 県立琴の浦高等特別支援学校(東伯郡琴浦町赤碓1957-1)
電話 0858(55)6477 FAX 0858(55)6466

琴の浦高等特別支援学校 検索

博物館が地域の学習を支援します!

～鳥取県立博物館の地域支援「移動博物館」・「学芸員派遣」～

県立博物館は、鳥取県の自然、歴史・民俗、美術のお宝資料を、「集めて」・「調べて」・「紹介」しています。また、地域のニーズにお応えするため、公民館や子ども会主催の事業などで「移動博物館」や「学芸員派遣」などを行っています。博物館の地域支援をぜひご利用ください。

移動博物館の一例 毎年1月に学校・公民館に照会しています。博物館の資料が学校や公民館を巡回し、身近に接する機会を提供しています。

「レッドデータブックととりの生きもの」
展示資料: サンコウチョウ
オオサンショウウオやカラスガイ、サギソウなどレッドデータブックととりに改訂版に掲載されている鳥取県の動植物を展示します。これら生物の現状の紹介にとどまらず生物多様性の大切さについても紹介します。

「鳥取県の狛犬」
展示パネル: 因幡で最古の狛犬
県内の神社の参道などに設置されている石造の狛犬の中で、ユニークなもの、特長のあるものを写真パネルで紹介します。

学芸員派遣の一例 随時受け付けています。

公民館の講座や子ども会の行事などに、各分野の学芸員がゲストティーチャーとして出かけます。

「鳥取の美術入門講座」のようす
美術部門の学芸員が地域に出向き、主に鳥取県の美術の概要や作家について1時間程度の講座を開催します。また、受講者の年齢や発達段階に応じてゲームやグッズを取り入れたり、ワークシートを使用した講座を行います。

問合せ先 県立博物館 電話 0857(26)8044 FAX 0857(26)8041

鳥取緑風高校 定時制・通信制で自分のペースで学ぶ学校です。

本校の定時制は午前部・午後部・夜間部を有する3部制の総合学科です。また通信制は週1回のスクーリングとレポートを中心とする普通科です。平成15年に県下で初めての定時制通信制独立校として誕生しました。

現在、10代から40代までの幅広い年齢層、仕事を持ちながら、育児をしながらといった、さまざまな生徒の皆さんがそれぞれの目的をもって頑張っています。自分のペースで主体的に学習することが基本の学校です。

本校では広い農場、周辺の自然を活用した体験学習を推進しています。市民交流農園で地域の方と交流したり、湖山池を活用した自然体験活動、実際の現場での職業体験などを行っています。

問合せ先 県立鳥取緑風高校 電話 0857(37)3100 FAX 0857(28)0071

鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教職員全体の指導力向上を図っています。今回は県立米子養護学校の上灘良祐教諭(認定分野: 自立活動)にお話を伺いました。

「たのしく学んで力をつけよう!」遊びやゲームを取り入れた自立活動の指導
例えば「魚つりゲーム」は、竿を握って操作する、魚とつり針をじっくり見る、全身でバランスをとるなど複数の動作を同時に行うことによって、魚をつり上げることができます。また、「ピンポン玉運び」は、玉が落ちないように手元を見たり、スプーンを握る力やスプーンの角度を調整したり、慎重に足を動かしたりすることで、ピンポン玉を運ぶことができます。これらの遊びには、スムーズに身体を動かしたり集中力を高めたりするような、子どもの心身の調和的発達を促す要素が詰まっています。

「自立活動」の指導にこのような楽しい活動を取り入れることは、子どもたちの意欲ややる気を喚起し、個々の子どもたちの学習や生活の中の困り感を主体的に改善・克服することにつながります。

問合せ先 県教委特別支援教育課 電話 0857(26)7575 FAX 0857(26)8101

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!

第14回 豊年満作と秋祭り

秋は田んぼが黄金色に染まる爽やかな季節で、収穫を祝うお祭りが各地で行われます。皆さんにとって収穫祭といえば、何の作物の収穫を思い浮かべますでしょうか? 学校や公民館などで栽培されるサツマイモが案外身近に感じられるかもしれません。さて、日本のお祭りで収穫の儀礼といえば、やはり米が主役です。それも一度の儀礼ではなく、節目ごとに繰り返し行われてきました。

まず稲の刈り入れに先立って「穂掛け」が行われます。これは稲の初穂を神前に供えて収穫を祝うもので、伯耆では八朔(旧暦八月一日)に行うところが多くみられます。八朔の頃は、いよいよ収穫を迎えるものの、台風や鳥の害の心配も多く、無事に収穫できることを神に強く願ったと思われます。

そして無事に稲刈りを終えることができれば、「鎌祝い」あるいは「刈り祝い」を行いました。南部町では餅つき臼の上に箕を載せて、その中に稲束と稲刈りに使用した鎌を並べ、ショウケ飯(五目飯)を炊いて供えたといわれます。また、刈り入れの後、稲を稲架(イナキまたはハデなどと呼ぶ)にかけて乾燥させ、脱穀を行います。

問合せ先 県教委文化財課 電話 0857(26)7934 FAX 0857(26)8128
鳥取県の文化財情報HP(とっとり文化財ナビ)
<http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>